

た歴史と伝統、そして地域を守るという熱き消防魂を分団旗と共に受け継いできました。団員はこの思いを後世に伝え、地域の守り手として活動を続けていきます。

活躍の場を広げる女性隊

消防団の活動は何も男性だけのものではありません。女性隊は、防災訓練など市民が集まる場所で心肺蘇生法やAEDの使い方、止血法などの応急手当の普及活動を実施しています。

女性隊の本部長を務める佐藤智美さんは「市民に正しい知識を伝えることが、その人の家族や地域で不測の事態が起こったときの備えとなります。不測の事態が起こったときに、すぐに救急車が来てくれるとは限りません。救急車が来るまでに自分たちに何かできることはあるか、女性隊の話が考えるきっかけになってくれればと思います」と語ってくれました。

「地域の人に心肺蘇生法やAEDの使い方を伝えるとともに、自らも知識を身につけ、消防団を退団してからも、その知識を生かして地域に貢献

することが出来る人材を育てたい」そんな熱き消防魂が女性隊にも引き継がれています。

地域に生きる

災害現場では消防団は消防署との連携が不可欠です。

消防署に現場周辺の地形や補給水利の確保、現場周辺の家屋の情報などをいち早く伝えることが重要な役割の一つです。

地域に生きる消防団と消防署の協力体制が整っているからこそ災害時でも迅速な対応が行えるのです。

地域防災の要として重要な役割を担う消防団を理解してもらい、これからも地域の仲間と一緒に災害のないまちをつくっていきましょう。



▶心肺蘇生法を指導する女性隊



防車両・救急車のよりスムーズな出動指令が可能になっています。

出動指令を受けた活動隊は現場に到着後、現場の状況を報告し、自らの隊で事案が収束できるか判断し、必要があれば指令センターへ応援要請を行うことで円滑な消防活動を展開しています。

命をつなぐ応急処置

あなたの大切な人が目の前で急に倒れた時、あなたはどのようにしますか？

あわてることなく適切な応急手当ができるでしょうか。近くに居合わせた人に119番通報を依頼し、もし近くにAEDがあり、いち早く使用すれば助かる命が少なからずあるはずです。これは決して成人だけではなく、少年野球などでボールが胸に当たった場合に、突然心臓が細かな痙攣を起こす「心臓震盪」という症状があります。これなども早い処置を行わなければ死にいたりします。

救急車が到着するまでに、現場に居合わせた人による早い通報と早い処置が、あなたの大切な人の命を守ってくれ

ます。消防署では、これらの処置を習得する普通救命講習などを実施しています。

火災を未然に防ぐために

昨年、当市で発生した火災は14件で損害額合計は253万8千円で過去5年間で最も損害額が少ない年でした。

全国的に火災の原因は放火、タバコ、放火の疑いが全体の約20%を占めています。

火災を含め災害のない安全・安心なまちを目指し、消防署では事業所を対象とした防火管理講習や住宅用火災警報器設置の普及・啓発活動などを実施し、これからも御前崎市民の生命・身体・財産を守っていきます。



▶高規格救急車内での救命訓練